

会議名	平成26年(2014年) 第2回 宝塚市幼稚園教育審議会		
日時	平成26年(2014年)6月30日(月) 午後6時から8時15分	場所	宝塚市役所 特別会議室
出席者	委員	北野幸子、石野秀明、赤木公子、木田繁子、徳田和美、河辺幸子、岸田美穂、橋本真弓、 爲谷智恵美、秦忍 (敬称略) 計10名	
	事務局	学校教育部長、学校教育室長、学校教育室課長、学校教育課係長	
	関係課	管理部長、学事課長、学事課係員 計 7名	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	1名
内 容(概要)			
<p>1 開会</p> <p>2 会議の成立及び公開について 委員11名中10名出席 宝塚市幼稚園教育審議会規則第6条第2項により過半数以上の出席があったため、会議は成立している。 また、本日の会議は公開とする。傍聴者は1名。</p> <p>3 議題</p> <p>(1)公立幼稚園の役割について (2)適正規模・適正配置について</p> <p>会長 まず、議題1、「公立幼稚園の役割について」ですが、前回3年保育について協議がなされた。前回の協議内容の確認を含めて事務局より説明してほしい。</p> <p>事務局 第一回の議事録に沿って、審議内容を確認する。 前回、石野委員から3年保育のニーズ調査についてご意見をいただいた。昨年、子ども未来部が実施した「子どもの成長と子育てに関するアンケート調査」を資料として配布させていただいた。資料NO1 保育所・幼稚園等の利用状況と今後の利用希望について、3歳以降就学前の時期には、幼稚園62.6%と、幼稚園の預かり保育38.6%、認可保育所34.9%、認定認定こども園11.4%の順に利用希望が多くなっている。また、資料NO2今年度の就園状況。4歳児については、68.6%、5歳児については70.3%が公私立幼稚園に通っており、本市では保護者の幼稚園ニーズの高いことがここから読み取れる。</p> <p>会長 前回の協議内容と、3歳児保育ニーズについて説明があった。前回の審議からは、子どもの育ちの面と保護者の子育て支援の面から公立幼稚園で3年保育を実施するという点について意見があった。また、実施するにあたっては、公私立間の格差や保育室の整備だけでなく、園庭の環境整備、職員配置なども課題として意見が出された。このことについて何か意見はないか。</p> <p>委員 今、子どもの育ちについてという発言があったが、西谷認定こども園が昨年度から3歳児保育を始めているが、どのような教育効果があがっているか等、保護者や職員がどう感じているかというところを委員会はつかんでいるか。つかんでいたら提示してほしい。</p>			

事務局 3年保育については、昨年度から西谷で実施している。保護者アンケートを実施しているの、その結果を少し説明する。お子さんは喜んで幼稚園に通っていますかという項目では、87%の方が喜んで通っていると答えた。幼稚園部分でお子さんは成長したかという項目では、84%の方がはいと答えている。はいと回答した方に、どんな風にお子さんの様子が変わったかと聞いている。まず、保育所部分の3歳児以上の方については、同年齢、異年齢の子どもと遊ぶ機会が増えた、幼稚園部分では、子どもの経験の幅が広がり、物事への興味関心が広がったと回答している。保護者についても聞いている。3年保育が始まってよかったかという項目では、79%がよかったと答えている。はいと答えた方について理由は、幼稚園部分では、保護者同士のつながりができた、子どもの成長を感じられたということが大きな割合を占めている。保育所部分では、3歳児から幼稚園で幼児教育を受けられるというところが、高い数値になっている。どちらともいえないと回答した方は、施設が十分でない、教師の力不足、条件が少し整っていないという意見があった。実施園としては、おおむねよかったという回答。具体的には、子どもの経験の幅が広がった、異年齢のかかわりが増えることで、より相手を思いやる気持ちが育った、早期からの保護者支援ができるようになった、一方教師の力量が問われるとともに、教師自身も育てられると感じたという意見があった。しかし、去年始まったばかりなので、3年保育の成果としてどこまで表せるかというのは難しい。

委員 いろいろな市を見ているが、これだけ幼稚園ニーズが高いのはめずらしい。他の市にいくと保育所や認定こども園のニーズが高い。ニーズ量から考えて、他の委員も言っているが、行き場のない保護者がいることを考えると、公立幼稚園で3年保育を実施しても、私立幼稚園と競合にはならない印象を数値上では受けた。68%ぐらいのニーズがあって、現在40%受け入れていて、20%程度が余っていると考えれば、競合にならない。市全体の教育が発展していくことが重要だと考えるので、3年保育は実施しても大丈夫ではないかという印象を受けた。ただ、前回の他の委員さんの議事録にあるが、保護者の負担の平準化は合わせて進める必要がある。私立に行っている保護者だけの負担が大きいというのは回避しなければならない。

委員 公立幼稚園に3年保育ということで議論されているが、資料4の宝塚市の予算34ページ、26年度4月には保育所を開設と掲げられており、定員120人、110人という具合に、かなりの人数が収容されることが可能な場合、保育所になると0歳からはいるとなると、3歳も入ることになる。待機している子どもたちのかなりの数が行くことになる。新たに公立幼稚園で3歳児保育をするのではなく、保育所でするといっているの、そちらにかなりの数いくのではないか。そのあたりはどう考えているか。

事務局 3歳児ニーズが高いというのがこの市の特徴だということ。ニーズ調査からも幼稚園教育が62.6%、認可保育所が34.9%あるということからすると、保育所に行かれる方もいると思うが、この調査からすると幼稚園を希望する方が多いと推測される。

委員 あくまで推測という段階であれば、今は幼稚園かもしれないが、保育所ができればそちらに流れるということも考えられないことはない。そうすると、3歳児保育を希望する宝塚であれば、どれだけの数が確実に入られるかと細かく調査したうえでないと、始めました、でもやっぱり今の公立の4歳5歳のように10人20人と少ない、3歳の場合は20人は少ないとはいえないが、少ない人数であれば、それだけのものを開設しました、でもやっぱりニーズはなかったということもあるとすると、本当に幼稚園が必要と思っているのか、幼稚園があれば入りたいというのか、お勤めもしたい人は絶対幼稚園とは限らない。その辺のところ曖昧なのではないか。

委員 やって見ないと分からないというところもあると思うが、今、公立幼稚園を選んでいる方が、保育所ができたからといって、すぐにそちらに進路を変えられるかという、今公立幼稚園を望んでおられる方は公立幼稚園にいきたいと思っておられると感じる。3年保育の定員がうまらぬのではないかと意見だが、今、公立幼稚園が定員割れしている理由の一つには、3年保育がないからだと思っている。公立幼稚園を選んでいる保護者や子どもたちは、幼稚園教育は本来3年教育であるべきだと思うので、その3年保育を受ける環境をつくるのは、これからの幼児教育を充実させる上で必要でないかと考える。

- 委員 保育所からすると、今、兵庫県下で神戸を除いて、宝塚が待機児童トップである。今年度私立保育園を一つ、120名の定員で開設した。昨年度より少し待機児童が減っただけ。待機児童の計算の仕方はいろいろあるが、現在も100名以上の待機児童がいる。数字として出てくるのは100名程度だが、実際潜在的な保育所入所希望はもっといる。毎年のように私立保育所が開設されているが、供給がまた需要を呼ぶ。保育所も来年度には待機児童ゼロという大きな市制方針を掲げているので、そちらも重点的にしている。保育所に入りたけれど入れない、入れたら働きたいということだが、なかなか、働きたいから保育所ということが今の段階ではできないということもある。子育て支援のアンケートのなかでも、「保育所に入れば働きたいですか」というような質問事項があるが、そこまで覚えてないが、数値的には高くなかった。幼稚園を希望される方が保育所となれば、一番は就労となる。働いてまでという人は少ない。保育所ができたからそちらにとか、公立幼稚園に入りたけれど保育所ができるから保育所という方向性は少ないと思う。
- 会長 今、資料をもっているのだが、平成24年、25年の待機児童は、いずれも宝塚は一人もいない。3歳児未満の待機児童しかいない。平成25年のデータは、1歳が49人、2歳が63人、3歳が16人で、4、5歳が0なので、そういう意味では競合しないのではないかと。
- 委員 保護者の就労状況調査をみると、小学校に入るとパートも含めて働いている数が増えてきているのが分かる。幼児の間は、子どもと一緒に過ごしたいという気持ちをもっている人がたくさんいるんだと感じる。幼稚園に行かせて、自分も幼稚園生活を体験して、それになおかつ仕事をしたいのであれば、延長保育などをうまく利用して、幼稚園に行かせたいという保護者もいることを、私も何人か聞いている。そういう意味では、保育所、私立幼稚園だけでなく、選択肢を増やすということでは悪いことではない、みなさんのニーズの中にはいっているのではないかと。
- 委員 前回話されたなかで、公立の3歳児保育の受け入れが、ある程度必要だと思っている保護者の方がいて、ちょうどうまく当てはまる形での、3歳児保育のやり方を宝塚市が求められている率が多いのではないかと。働きたいと思われているお母さんと、幼稚園に1年待ってでも行かせたいというお母さんがいて、もともとどこか機関にいきたくて明確にもたれている方が多い。公立幼稚園の3年保育に入りたくて待っているお母さん、自分が現場で働いているときも一年待ちますというお母さんの声をたくさん聞いているので、そういう意味では、競合していくということではなくていける方向でみていくことが大事なのではと思っている。
- 委員 私立保育所120人規模4園新たに増設したとしても、これは数字上でしかいえないが多く見積もっても、私立保育所で3歳児の受け入れが可能なのは100人だと思う。今日もらった資料のなかで、3歳児4歳児5歳児の就園入所率の推移をみると、3歳児は公立7人、4歳になると495人になっている。おそらく、公立で3年保育を全園で実施するのは、キャンシティの問題で無理、保育室もない。ざっと495人、これが3歳児で全員来たとして仮定すると、まだそれでも370人、私立保育所で120人の3歳児を受け入れたとして、370人のニーズが潜在的にある。こういった子どもたちに、宝塚市は財政難ではあるが、公立という媒体で教育機会を提供するのにどう責任をもつのかということにかかってくる。実際、今キャンシティのある園をすべて開園しても370人という数字にはとうてい追いつかない。市として、教育保育ニーズに対応できる力をもっているということが、市の教育全体の振興につながるし、市にお子さんに来ていただくということにもつながるということを見ると、この数字をみるとやらなければならないと思う。それが公的な責任だと思う。
- 会長 これからの宝塚市の就学前教育の充実という点では、公私立関係なく3歳児からの幼児教育の提供は必要であると考えている。ニーズ調査からも3歳児からのニーズが高いのも分かった。またそもそも幼稚園教育要領は3年保育を想定してつくられているものなので、教育の市の責任としてある。3歳児保育のニーズが高い、必要性もあると思う。しかし、市の財政状況等に状況も全く考えないというわけにはいかない。事務局からそのあたりで説明等してほしい。

事務局 資料NO4。本市の財政状況は、歳入においては、平成21年度から歳入の根幹となる市税の減収が連続しており、国の経済対策により景気は回復基調にあるものの当面、大幅な回復が見込める状況にはない。歳出においては、子どもや高齢者、障がい者、生活保護世帯などへの社会保障関連経費が急増しているほか、老朽化する公共施設の整備保全や耐震化など、財政需要を押し上げる諸要因が山積しており、引き続き厳しい財政運営となることが予想される。教育費については、前年度と比較すると114.7%となっており、歳出の10%を占めている。

委員 3年保育について協議するにあたり、市の財政負担を全く無視することはできないと思う。議題2「公立幼稚園の適正規模・適正配置」も合わせて協議していく方がスムーズに行われると考えるが、どうか。

会長 市の財政と議題2を合わせて協議するという事なので、現在の公立幼稚園の在籍の状況などについて説明してほしい。

事務局 前回に配布した資料NO7。良元幼稚園と西谷幼稚園、末成幼稚園以外の9園は、年長・年少それぞれ2学級。西谷幼稚園は3・4・5歳児単学級。末成幼稚園については今年度から年少が1学級となり3学級の園となった。園児数をみると長尾幼稚園、安倉幼稚園、丸橋幼稚園が100人を超えている。次に資料NO3、本市の7ブロックの中の公私立幼稚園の所在と在籍人数を記載している。以前3年保育を実施する予定としており、保育室の整備ができていないのは、2ブロックにある仁川幼稚園、6ブロックにある長尾幼稚園。それ以外で現在、空保育室があるのが、1ブロックの良元幼稚園、末成幼稚園、4ブロックの安倉幼稚園の3園。資料NO5。適正配置、適正規模ということで、市立幼稚園の休園・廃園と園児数の推移を資料としてあげている。今年度、良元幼稚園の4歳児が平成24年度に比べて13人増えてる。一方、末成幼稚園では昨年度4歳児41人であったのが、今年度は4歳児1学級25人と良元幼稚園より少ない状況である。近い幼稚園で子どもを取り合っている状況なのかなと思う。

委員 末成と良元が児童をとりあっているという話だが、それは居住区というか、近い方を選んでいいのか、自然とそうなっているのか、それとも違う要因があるのか。

事務局 どちらとも通いやすい中間に住んでいる人は、園区がないので、聞くとところによると、就園前から、それぞれの園で未就園児の子育て教室というのを開催していて、以前であれば、その幼稚園に行こうと思えばその幼稚園の子育て教室に通っていたが、今はいろいろはしごをされている。3歳児のときに、近い、通えそうな幼稚園であれば、良元幼稚園の子育て教室に行ったり、末成幼稚園の教室にいたりとしている。そのなかで、子どもさんにあう幼稚園をみつけているということも聞く。

委員 仁川、長尾幼稚園は3歳児保育の準備ができていないというのは、どういう意味での準備ができていないということか。

事務局 保育室が3歳児用の仕様になっている。たとえば、手洗い、トイレが3歳児を想定したつくりになっている。

委員 良元、末成、安倉に空き教室があるというのは、どういう意味か。

事務局 そこは、今、4歳児5歳児が入っているが、保育室としては余裕があるという意味。

委員 4歳児、5歳児に関してということか。そこに3歳児を可能であればいれたいという意向があるのか。

事務局 前回空き保育室があるかないかという話がでたので、この幼稚園については、現在空き保育室があるということの資料として出している。

委員 良元幼稚園と末成幼稚園の園児数の推移をみていくと、非常に近隣で、どちらがいいかお母さんたちが調べていかれていることを考えると、お互いにお互いが、近い距離で園をどちらにするかということで、園児数の確保の取り合いみたいな形になっている状況がうかがえる。人数でいえば、どちらかが1クラスきちんと人数を確保し、どちらかを廃園というような方向のほうが、適正な規模からいえばそのほうがいいと思うが、そのあたりはどうか。

事務局 今出ていた良元幼稚園、末成幼稚園ですが、ちょうどいま学事課では、3歳児のお子さんを住所ごとに住民基本台帳上に人数を入れていくので、そこから公立幼稚園に何人就園するかと推定をとって学級数を決めていくことになる。そのなかで、良元幼稚園、末成幼稚園のバランスも見ながら、例えば、両方合わせて就園児が60名であれば、今現在、良元幼稚園は30名なので、末成幼稚園を1学級に設定すればいいが、そこが70人、80人、あるいは90人となってくれば、末成幼稚園を2クラス設定しなければならない。良元幼稚園の施設は余裕があるといいながらも、教室が狭いので、そこを2クラスにはなかなかできないので、末成のほうで2クラスにすると調整していかなければならない。60名に近い場合は、末成も1クラスにし、極力、末成と良元の地域でもって子どもを受け入れられるような定員配置にしたいと思っている、将来的には、全体的な園児の見込みを見ながら、適正な学級数にある程度にしていかなければならない。今は園児数によって2学級にするのか1学級にするのか決めていくが、どこかで固定して、4歳児は1学級とし教室を一つ余裕をもたせて、3年保育のほうで合意が得られるのであれば、それを3年用の教室にするという方向性をもつことが必要。そうすることで、新たな建設とかをなくして財政支出のない状況のなかで、3年保育も可能であると考えている。

会長 小学校の様子はどうか。

事務局 今、良元小学校と末成小学校がでたので、小学校の子どもの推計は、良元小学校はあまり減らない。ちょっと増える。平成25年度には378人の子どもがいる。去年の推計ではあるが、平成31年には390人に増える。今子どもが減っていくなか、多少でも増える傾向にあるのが良元小学校である。末成小学校は平成25年は、362人いたが、平成31年には258人にまで減る見込み。この良元小学校と末成小学校の間に位置するのが光明小学校があるが、平成25年には217人いましたが、平成31年には187人までに減る。良元小学校は横ばい、末成小学校光明小学校については、減少傾向にあると見込んでいる。子どもたちが減っている状況はこの地域以外にもある。中山五月台、桜台地区、この地区も数が減ってきている地域。かつては、中山台地区となると、子どもたちが五月台、桜台だけで2000人ほどいた。今年、五月台小学校で152人、最大では昭和59年1081人いたのが152人、中山桜台小学校、最大昭和56年に1018人いたが、平成26年は396人になった。中山五月台小区ほどではないが、ここでも40%程度減少してきている状況。中山台地区のほうも、小学校地区は減少してきている。

委員 今この小学校や幼稚園で子どもがだんだん減っていったら、つまりはどういうことなのか。減ってきているので、幼稚園で……

会長 子どもが増える見込みのない、高齢化してきている地域ということだと思うが、小学校も統廃合なのか？

事務局 市内のなかでは、第一小学校、長尾小学校は過大規模校で、何とかしてほしいという意見を聞く。一方で、宝塚市内ほとんどの学校が小規模校が増えていて、今申し上げた光明小学校、中山五月台小学校は著しく小規模化しているが、このような学校が10年経つとどうなっているか。小規模化に向けた学校がどうあるべきかは、教育委員会内で検討していかなければならない。大規模校に関してもどうにかせねばと検討しているが、あわせて小規模校対策をしていかなければならないと考えている。

委員

小学校の話をしているので思い出したが、もともと光明小学校の横にも光明幼稚園があり、とても近いところに、良元があり、末成があるという状況であった。それが人口の推移とともに光明幼稚園が統廃合されて、良元幼稚園、末成幼稚園の2つに流れていった。今また、検討しなければならない人数になっている。近隣に公立幼稚園があるのであれば、どちらか1つを統廃合し、もう一つは違った形のものを考えていく。もし空き教室があるのであれば、たとえば、さきほど教員の資の底上げをしないとけないなどの話が出ていた。宝塚市は公立の場合、ソフト面でとても手厚いと思う。園長先生、副園長先生、主査の先生がいて、非常に充実した保育の場で、質の高い保育を提供をされていると思った。他市に行くことで、この市の良さがわかってきた。先ほど、先生の力不足だったということが出てきたが、それは、認定こども園で乳幼児から、0歳児から3歳児の保育の研修をもう少ししないとけないということが表れた回答だったと思う。今、公立の3歳児をどうするのかということと並行して、質の確保をしていくことを考えなければならない。いいところはいいところで伸ばしていかなければならない。宝塚市の就学前教育として、きちんと質の保証ができるようなシステム、たとえば幼児教育センターのような施設をつくり、就学前として、私立、公立保育所、私立、公立幼稚園も、教員みんながそこで研修できるような体制、空き保育室を利用して研修ができること。センターの役割を果たせるような施設で質の保証をしていくこと。また、幼児教育の充実を考えたときには、ジブシーのようということが議事録に書かれていたが、そういったお母さんの不安を解消するように、子育て支援的なことも加味する、場所はどこかというのはわからないが、子育て支援プラス幼児教育センターを設け、質の保証をしていく。宝塚市ならではのことを進めていかなければならないのではないかと。宝塚市教育振興計画のなかで、幼稚園の教員も、保育所の保育士もみんなで質の向上を高めていかなければならない、5年後10年後の宝塚の子どもたちを見据えてということであっている。振興計画をつくって5年経つが、その見直しを兼ねて、幼児教育の質の向上もいれてほしい。

委員

私は、市民公募委員なので、作文を書いて応募したのだが、その内容に今お話しされたセンター的な役割を書いた。ここに行ったり、あっちに行ったりと行くところがまちまちで、一カ所ここにいけば子どものことがいろいろ分かる場所は確かに必要で、子どもを連れてこち行って違ふからあちというのは大変なことで、そういう意味ではセンター的役割をする場所が必要じゃないかと考えていたので、今言っていたいですごくうれしい。

委員

子育てコンシェルジュという形で、そこに行けばいろんな情報とか、施設の紹介も含めてできるような形をつくってこうという方向の案は、まだ具体的にはないが、そういうのができれば、幼稚園も含めることができるのではいか。

委員

今、委員さんのほうから子育て支援というか、就学前教育の充実ということで幼児教育センター的なものをと提案があったかと思う。もともとこの審議会は、宝塚市の幼稚園教育の振興等について、どう幼児教育を充実させていくかということでいろいろ諮問され、考えているところだと思う。そういうことで今、公立幼稚園の3年保育を含め、どのような幼児教育をしていくことが子どもたちのためになるのかと考えている。ただ残念ながら財政ということとの兼ね合いを考えながら、適正配置をからませながら充実することを考えているところである。もし、今後統廃合された場合、空き施設ができてくるので、その活用についてはこれから議論されていくべきことだと思うし、先ほどの提案は一つの良い方向性が見つかっていくのかなと思う。今そのことを考えていく一つのところで、公立幼稚園の3年保育を審議しているのではと思うが、適正配置と公立幼稚園の3年保育の実施をどううまくみあわせていくかというところを、もう少し具体的に調べていくことが必要だと思う。

委員

子どもの人数が減少しているという話で、廃園ということが出ているが、少ない人数で保育も成り立たないということも聞くので、その上で本当は近いところで選べるのがベストだと思うが、それがどうしても無理ということであれば、廃園というのも仕方ないかと聞いていたが、今後そのような方向で進んでいくのか。

事務局 公立幼稚園の統廃合というのは初めてではない。資料5を見ると分かるが、休園廃園を繰り返してきている。最高では21園あった。1小学校に1幼稚園つくっていこうと整備した結果、21小学校21幼稚園のときがあって、徐々に少子化により、昭和63年くらいから休園が入ってきた。平成2年くらいから廃園をしてきた。これは、幼稚園教育審議会をひらいてその都度廃園をしてきた。ちょうど廃園と同時に、廃園することで全体的にサービスが低下する分、2年保育を上乗せすることにより質をあげることで市民の理解を得ようということで、仁川幼稚園で試験的に2年保育をした結果、市民の方からよかったと、全園のなかで広げてほしいと、順次2年保育を進めていった。この表はそれもみていける。今では、全園で2年保育をやってきたということになっている。これと同じように、統廃合を進めて、その分3年保育をやっていくということまでとは言えないが、皆さん方で審議していただかないといけないが、公立幼稚園も今もう一度見直さないといけない。それで申し上げたのが、末成幼稚園、良元幼稚園の地域と中山台の地域、子どもが減ってきているので、もう一度ここで統廃合をだして、適正規模適正配置についてご審議していただきたい。統廃合をした場合、公務員なので明日から先生こなくていいということとはできないので、その先生であったり、その施設を使ったなかで、今言われたセンター的な役割、これは実は平成15年の幼稚園教育審議会でも、公立の役割はそういうところも必要ですよ、全市的にしっかりと幼児教育をみていく、公立の何十%見ていればいいのではないという意見もあったので、これはしっかりとやっていかなければならないところだと思う。それと合わせて、統廃合だけでなく、園の全体の人数をみると、かつては1学年2学級を維持していた、あるいは抽選までしていた園が、2学級といっても1学級に近い人数になってきた。全体的な財政状況を考えると、少ない人数で2学級運営するのがほんとにいいのかどうかをしっかりと考えて、そこを少しスリムにして、1学級にできるところは1学級にすることも含めて検討して、空いてきた部屋を活用すればいろいろな教育の広がりができるのではないかと考える。幼児教育を充実させるために、新たな財源を投入せず、今ある施設を少し変容、縮小することによって空いた教室を使って、新たな保育のステージを設けて、今の定員を絞り込むことによってういてきた先生をそこに投入する場所も教員も新たに雇用するとか、財政的な負担を強いることなく、保育そのものを広げるとか、ステージをどんどん広げたいという思いから、今回こういった諮問をした。廃園とかするなかで、スリム化するなかで保育も充実させていきたいと考えている。

委員

前に、3年保育が実施される段階で、準備不足のためできなかったという話が出ていて、教室はあるのに使われていないのはもったいないなと思っていた。活用できることは、反対に市民のニーズもあるので、そこのとこがうまくいってほしいのではないかなと思う。今話を聞いていても、どうしても統廃合しないといけなくなれば、空いてくる教室の他の活用法をという形で、3年保育を望む方がいればそこで増やしていけばいいので、そのように一つの方法で今いったのがいいのかなという気がする。

委員

ちょっと話はずれるかもしれないが、先ほどからいっている質の向上という部分で、公立幼稚園が公立の小学校に併設してあるというのにはメリットがある。小学校の子どもたちの様子も、幼稚園の就学前としては大事なことで、小学校に対する目を向けていくということで、小学校ではこんなことをするんだなという流れがわかる、小学校の先生たちも幼稚園の子どもたちのことを見ていたら、幼稚園の子どもたちはこの辺のレベルのことまでわかると、それがわかった上で小学校一年生にあがってくると、小1プロブレムという問題も少なくなってくるだろうし、反対に幼稚園も、小学校にいったらこんなことができるという希望をもたせて小学校にあがらせるというのは公立のメリットである。私立幼稚園でも幼小連携でいろいろやりましようと言われていたなかで、それは年長ということだが、私立幼稚園が公立小学校とどれだけ幼小連携して、いろいろな授業、保育ができるかなというとなかなか難しい。近くの小学校であっても、そこまで子どもたちを連れていって、小学校はこんなとこだよと見せることができない。小学校の先生も、幼稚園に来てもらって幼稚園はこんなことをしている、これぐらいのことができる、1年生になったらこれぐらいのことをさせようという、その辺の連携が全然ちぐはぐになる。何回かチャレンジしたが、しりきれとんぼになってしまう、うまくいかないということがあったりして。その代わりにオープンスクールがあるなど、行かれる小学校のことは保護者に知らせたり、いろいろな催しものがあったら幼稚園の子どもたちを連れていってもらったりはしてもらっている。それは、少しでも、小学校につなげてほしいという思いがある。そういう意味では、すごくいい条件にあるのが公立の幼稚園だと思う。ということは、結局就学前教育というものをもっと充実させられるのではないかな。3歳児、3歳児ということだけを頭において審議されているが、質の向上とか、子どもたちの在り方というのを考えた場合、そこだけではない。3歳児、4歳児、5歳児すべてに関していうのであれば、小学校と幼稚園と同じ敷地内にあるということのメリットをもっと考えれば、年長さんとのことをもっと充実させていくというのも幼児教育の大事なとこだと思う。そのあたりは、公立の幼稚園の年長さんはどんな風に進めているのか。

委員 公立幼稚園のほうでは、それぞれ園にもよるが、隣接している小学校とは交流活動をかなり積極的にやっている。子どもたちの育ちについて連携して、連絡会などをもつので、そういう意味では、少しでも滑らかに接続していけるように、子どもたちも職員もつながりをもっていっているところ。その内容がまだまだ充実していける可能性があるのではないかと問われれば、確かにその部分はあるかと思う。今できる限りのなかで、つながりをもって、子どもの育ちをつないでいくことに努めている。

委員 そうやって、公立幼稚園で一生懸命やっていたら、こういう風にやるんだよというのであれば、私立の幼稚園から小学校にも一緒にいった子どもたちも、その公立の幼稚園を卒園した友達で、小学校に対して引っ張ってってもらえるという、わからない部分を教えてもらったりフォローしてもらったりというのはすごく有効だと思う。その辺に力を入れていただくということがすごくいいんじゃないかと思う。

委員 また横道にそれるかもしれないが、先程、子育て支援センターや幼児教育センターをという話をしたが、その具体的な中身として、今言われたように、私立はあちらこちらの地域から子どもがきていて、不安という話がでた。先ほどいいかけて言えなかったが、宝塚市としての就学前教育の底上げを考えたときに、たとえば、そこで、職員間がみな会すことができ、0歳児から6歳児までのスタンダードカリキュラムを、それぞれの地域というのではなく、宝塚市としてのスタンダードカリキュラムを作っていくんだとか、小学校にあげるために、受け入れてもらうときの不安を取り除くための小学校とのスタートカリキュラムをつくるか、そういった質的な保証をしていくセンターであるということも加味していきながら進めてはどうかと思って言った。うちは公立だから、うちは私立だから、うちは保育所だから、うちは私立の保育所だから、認定こども園だからではなくて、みんな就学前としての乳幼児教育を受けるといって、宝塚市全体の乳幼児教育の充実を考えたときのセンターというのがあればいいなという話である。先ほど事務局の人が言われたように、これからまた経費をかさんで3歳児保育を進めていくというのではなくて、今あるところの適正配置を考えたなかで、3歳児保育を何園かで考えていくという方向で進めていけば、公立幼稚園として3歳児から子どもたちを見ていける。このことは、今まで以上に幼児教育の充実に一歩踏み込んでいけるので、空き保育室の使い方等それはセットで多様なグランドデザインを考えていかないとはいけない。3歳児保育のことだけでなく、これらのことも加味しながら考えていってはどうか。いまのままでは、いずれ少しずつ減っていくであろう。幼稚園の場合は教育要領のなかで3歳児をおこなっていくということがあがっているのであるから、その辺の検討は当然していく。そしてみんなで一緒に底上げして学んでいくことが必要なのではないか。

委員 幼稚園に子どもを通わせている保護者からすると、公立も私立も内容が高くなっていくことはありがたいと思う。公立で3年保育を進めていったら、全部の園では難しいみたいだが、限られた園のなかで3歳からやるんだが、後は統廃合になれば、そこに通わせている親は、なくてもいいと思うのか。また、適正配置は、私立幼稚園がつぶれないような適正配置なのか心配。私立幼稚園に通わせているので、小学校へのつながりもよく考えれば重要だが、選ぶときにこういう考えの幼稚園だからここに入れようというので選んでいっているのだから、自分が選んだ幼稚園が今後つぶれるとなるとすごく困るし、幼児教育としていいとは思わない。そういう幼稚園もあるべきだと思って選んできているので、適正配置というのは、競合しないでしょという漠然な感じではなくて、絶対つぶれないような感じで考えてもらえるのかどうか。格差をなくしていこうというのは、そうですねとなっていたが、公立、私立の負担金、そこにもまた同じようにお金がかかってきてという部分で、全部同じように考えて話を進めてもらえるのか、ちょっと3年やろうやろうという雰囲気が見えるのが、決まっていってきいたら止められないのでその辺考えてもらえるのかなと思ったが。



事務局 まず適正配置だが、私立幼稚園は宝塚市で14園あり、過去にも園児数が増えたときには、私立幼稚園さんに定員を増やして受け入れてほしいとお願いにいった経緯がある。本市は、私立幼稚園14園あつての幼児教育というところもあるので、この私立幼稚園と公立幼稚園が競合してはいけないという思いがある。少子化になってきているので、公立幼稚園が調整弁になっていくのも、公立の一つの役割かと思う。これは宝塚市だけでなく、他市も子どもの数が減ってくると、どんどん公立幼稚園が減ってきている実態がある。そういったことも考えると、公立幼稚園で少子化の調整はある程度していかなければならない。適正配置のなかで、私立幼稚園をも数を調整しているというのではない。公立幼稚園でもって市内の全体的なバランスをみていきたいと思っている。

委員 2つの議題をセットにしているが、話をもとに戻すと、3年保育をもし実施するとなるとコストがあがる、その分のコストを適正配置・適正規模の議論で回収しようという、非常にドライな言い方をするとそういう言い方になる。適正配置、適正規模を考えるときは統廃合の議論になる。それは、公立が、先ほど事務局もいったように調整弁にならざるをえないというのは、その通りだと思う。市として現在適正規模について、どれぐらいの人数が必要かというガイドラインはあるか？特になにか？

事務局 今の段階では特につくっていない状況。

委員 保育所もそうだと思うが、一つのクラスですつとってしまうと、人間関係の固定化があるといつも思う。やはり、学級数が2つあるというのはそれなりに意味があると思うし、1学級20人はほしいという感覚は正直ある。19人、18人となると、それなら1学級にしたらいという話になるので、2学級20人、そうなると、80人が目安になる。4歳児、5歳児。そういう視点で80人を超えていない園は統廃合の対象となりうるというのが、適正規模の議論から導かれる。適正配置になるが、2つの視点が必要。一つは、供給過多つまり子どもを取り合っている状況は公立としてよくない、かといって80未満を全部きつていけば西谷みたいなところは成り立たない。もちろん公立としてセーフティネットをばらさないといけない。保護者の方が遠い園に送り出すのは、子どもにとって旅みたいになるのは気の毒。やはりセーフティネットとして適正配置を考えなければならぬ。適正規模として80人を目安に考えて、かつセーフティネット、需要過多、供給過多でもないという観点から適正規模適正配置を考えなければならぬ。それでどういったところが統廃合の対象になるのか。私はこのように考えるが、適正規模と適正配置について会長の意見を伺いたい。

会長 専門用語としては、都市計画とか建築計画の分野で、適正規模という言葉をつかったときは、キャパシティとアクセスビリティの両方が問題になる。今、先生が指摘したように、過疎化しているところでは私立の撤退ということも起こっていて、セーフティネットという意味では、一般的に車10分で通えるところに公的な、そういう学校や病院という施設があるということが適正な配置と言われているので、人数のうえで語られているが、そのことも同時に考えていかなければならないということが一つ。もう一つ、規模ということに関して世界では、5歳児に関しては先生1人に15人というのが適正になっていて、今度の新システムでは3歳児では実現できる。しかし、4歳、5歳はそのままということである。気になっているのは、市の財政。あるお金のなかで、よりよい保育をしていきたい、市の全部の子ども保育の質をあげていきたいということだと思う。そう思ったときにどの園もつぶれないでほしい、それはさきほど保護者でもある委員が言われたように、公立の保護者にも同じような気持ちがあるんだと思ってもらいたい。市の同じ子育ての仲間と思ってほしい。そう思ったときに3歳児保育をお金とかキャパシティの問題だけではなくて、やはり幼稚園教育要領もそもそも3年保育を想定しているんだということを一つは大事な念頭においてほしい。先ほどとてもよい指摘があった。接続期教育の充実が質のなかのキーだというのは、次の幼稚園教育要領のなかでは、今やっている交流や連携レベルからさらにあげて、接続という言葉をしっかり使い、小学校と幼児期の教育の接続をしっかりしようといわれているので、そこも大事にしてほしい。もうひとつ希望論を言ってしまうと、国自体は、今よりの公的資金を保育に投資しようと、平成27年より新しい制度がスタートする。夢のようかもしれないけど、決まった中での議論をしよう取り合いをしようというのではない発想も、市の幼児教育の振興としてはもっていくというのも大事だと思う。なので、適正配置の定義はしっかりしてほしいということと、どの子どもにも教育の保証という観点からは3年保育をしてほしいという気持ちがある。もう一つ気になるのは、適正配置のデータをとるときに、5歳以下の全部の子どもの人口、市区町村データは出ますね。国勢調査で出ているので、それで、しかも私立も、幼稚園も、保育園も、公立も全部入れた感じの適正規模の調査はある意味必要なのではないか。3歳には関してはさきほど委員さんが計算したように、3歳児保育に全部なったとしても、それでもなお足らない状態なのではないか、子ども園化どうするのかとか、もっと広いオプションがあってもいいと思っている。その辺も議論に入れてほしい。

事務局 5歳児以下の人口推移はとっているが……。いまちょっと手元になくて

会長 小学校区ごとのものか。

事務局 それも参考にしてほしい。前回資料5で、幼児人口の年度別推移出している。地域ごとにはなっていないが。事務局として今日は提示できないが、施設課というところで、地域別の子どもの推移をつかんでいるので、次回それを出せると思う。

事務局 幼稚園の場合園区がないので小学校区ごとに0歳児から5歳児まで就学前の人口推移は毎回とっているの、次回提示したいと思う。もう一点、3年保育というのは、公立幼稚園で3年保育を何が何でもということではなくて、3年保育に行きたくても、経済的なことも含めて行かせられてない家庭に対して、どう3年保育を提供していくかというところで、将来的な少子化を見据えていくと、保育所は増えていっているが、市内で幼稚園が増えていくことは考えられないので、公立幼稚園で何とか3年保育をすることによって、げんに4歳児に460人ほど入ってきているので、きっと幼稚園教育を受けさせたいと公立幼稚園に入っているの、その部分を3年保育でひろってきたい。公立幼稚園が広げていくんだというのではなくて、ここの3年保育に行きたいんだけど行けないところに対して、どう3年保育を提供していくのかという視点を考えている。決して公立幼稚園がでしゃばっていいということではない。3年保育を望むすべての市民に保育を受けてほしいということである。

会長 それは、私も前回そういう風に思い賛同した。今、2年の子どもが3年にいくことは競争にならないというのも意見として出した。ニーズだけでなく、子どもの権利保証の観点からもということも言っておきたい。

委員 そのためには、経済事情を考えるなら、私立のほうにも、いろいろな家庭のお子さんがいけるように補助を充実させてもらえると、今ある私立のなかで行こうと思う人も増えるはず。

委員 今選ぶ段階で、3歳児を選ぶときに私立しかない。地域性もあって、公立近いから、ここで3年があったらいいのになと思う人も絶対いるので、そういう意味では私立も公立も同じ土壌で、3歳児の入園を選ぶチャンスは平等にあるべきだと思う。さきほど話をしていたなかで、財政面で、全園にということが絶対無理と思いついていたので、できる範囲の、空いている教室がもったいないというのを補充していくというところで、できる範囲でできる場所ですていくということも、選択肢を皆さんに与えるという意味では、大事なことだと思う。

委員 今話があったように、3年保育を望む公立幼稚園に通っている人たちが選べるチャンスを、できることからしていくところで、先ほども名前があがっていた、保育室が準備できている仁川幼稚園と、長尾幼稚園、そして資料の地図でブロック別に見たら、大きく2つずつのブロックで考えたら、仁川幼稚園が1、2ブロックの3年保育を始めるキー園とすれば、5、6ブロックのキー園を長尾幼稚園とし、そうすると、3、4ブロックに居住している人が選べるように、空き教室があり、園児数も100人を超え一番ニーズが多いのではないかと安倉幼稚園で何とか3年保育ができるように、少ない予算のなかで整備して、3園で実施していくということで具体的に話が進めていければと思う。

会長 3園を統廃合することや3園で新たに3年保育を実施するという意見がでた。財政不足のなかであつても、就学前教育の充実を図っていくためには、そういう公立幼稚園の統廃合の問題もセットで考えていくことが現実である。ただ統廃合により、その地域で自分の保育がなくなるということは、地域で保育を受けてこられた方はすんなり納得できないので、また少し事務局の方から状況を教えてほしい。

事務局 他市の状況のことか

会長 はい

事務局 阪神間の状況をだが、尼崎市は、18園を平成28年度には、13園に最終的には9園にすると聞いている。西宮市は、募集で30人に満たない園は休園という非常に厳しいルールをひいている、それが2年続けば廃園というルールがあり、ゆくゆくは統廃合になると思う。芦屋市は9園から8園に、伊丹市も昨日、学教審の答申が送付されてきた。現在の16園について10園程度統廃合の方向性となっている。三田市は、公私立幼稚園が必ず小学校隣に整備されていることから、現状維持と聞いている。どこの市も、子どもの人数が減少する中で、公立幼稚園の統廃合が進んでいる。

- 委員 3園、仁川、長尾、安倉という話が出ていたが、それには財政を切り崩さないでそのままの状態であるということであれば、やはり統廃合も視野に入れて進めてほしい。
- 委員 行きつ戻りつするかもしれないが、さきほどいった3園のほかに、長尾南幼稚園という話が前回でたと思う。会長が言われたに、車で10分のところに公立としての施設があることがいいということと考えたときに、そこに行っている方に関してはその園がなくなるとはさびしいことだが、前回言われたように、役割的には、人数的なこととも考えると果たされている。まして新しく長尾幼稚園ができ、長尾幼稚園にも10分でいけ、丸橋幼稚園も同じ路線にあると考えたときには、統廃合のなかの1園として長尾南幼稚園を範疇に入れていけるのではないかなと思う。
- 委員 西谷幼稚園の3歳児保育のニーズ調査で、おおむね79%の方が満足されている。人数をみると3歳児さんは8名なので、8名のなかの79%ということは、1名が施設が問題があるとか、教師の力量が足りないのではないかなということと言っているととれる。8名のなかの1名となると多い、%的にはいいと思っている人が多いようだが、8名の中の1名が不満に思っているということは少し考えなければいけない。なので、3歳児保育を始める場合は、施設整備の面や、1名の方はどこのことをいっているのかと詳しく聞いて3歳児保育に臨まれるほうがよい。
- 事務局 ありがとうございます。最初にニーズ調査の対象を言っていなかった。幼稚園籍の3歳児以上の保護者対象20人。保育所の3歳児以上の在籍の保護者11人、合わせて31人の方から回答してもらった中79%が概ね始まってよかったという風に回答した。でも、言われたように、教員の質のことや、施設的なところ、少し手狭なところがあるので、そういうところについては、改善してほしいという意見もあったので、そこは課題だと認識している。
- 委員 車で10分ということだが、車で乗り付けられない公立幼稚園も多いと思う。車のことも判断基準になるのであれば、もっと車のことを考えるべき。
- 会長 先程言ったのは、公立幼稚園だけでなく、市として、幼稚園、保育園全部プロットして。そこでゾーンわけしてというのは研究手法にある。一番近くの保育施設に通うのに10分以上車で行かないという状態になるとあまりにも子どもにとって負担が大きいというような、子どもに限らず、公共のいわゆる市民サービスとしては課題があるという都市計画の分野の研究のやり方ということなので。
- 委員 保護者にとって車というのは重要。車をおけるかななど。
- 会長 なるほど。多くの保護者がバスがあるかないかは選択のひとつにあると聞く。10年20年後には、公立小学校も幼稚園もバスで巡回しないといけない時代がくるかもしれない。実際過疎地ではそういうことが起きている。そうするとまた統廃合を考えていかなければならない
- 事務局 1点確認したい。委員から、3園で3年保育をするなら統廃合を視野に入れてほしいという意見が出たが、統廃合では何園か名前があがってきたが、少し整理させてほしい。一番先にあがったのが、良元、末成あたりの地域、山の手の中山五月台のほう、もう一つは長尾南幼稚園。そのあたりの統廃合でよいか。
- 委員 この幼稚園を廃園してくださいという立場ではない。市としては、どのように思っているか？良元、末成はどちらか一つか両方かなどよくわからない。具体的に思っていることがあると思うので、教えてほしい。

事務局 長尾南幼稚園は、前回も説明したように役割を終えた、長尾地域の子どもが急増したときに再園したという経緯があるが、今は長尾幼稚園の新築により保育室も十分あり、それとあわせ丸橋幼稚園も定員をわっているという状況もあるので、長尾南幼稚園の園児数については、2園で受け入れが可能。それと中山五月台幼稚園は、やはり小学校も少なくなり大きな問題となっており、幼稚園も園児数が減ってきているので、園を継続するのか廃園するのかを整理したい、ただこの地域から公立幼稚園がなくなってしまうという問題はあります。ここは、勝手な言い方もしてないが、市は私立幼稚園と連携しながらきたこともあるので、園バスをそこに走らせられないか等も含め、私立と協議を進めていきたい。もう1園が未成あたりの園。2園とも廃園となってしまうと、地域全体で幼稚園がなくなってしまうので、どちらかになると思う。施設的な問題となってくると、良元幼稚園は非常に園舎が狭い。ここは施設的に、園庭も比較的十分にある未成幼稚園を残して、良元幼稚園を廃園できればと考えている。ということで、廃園を考えているのは、良元幼稚園、中山五月台幼稚園、長尾南幼稚園の3園を事務局としては考えている。

委員 今、中山五月台幼稚園の名前があがったが、委員としては宝塚市の公立幼稚園の今後のことを考えて、充実発展ということで統廃合もやもえない。園長としては断腸の思いだが、将来的なことを考えると、それでもやはり3年保育を実施することを鑑みてやむをえないと思う。ただ、先ほど公私間の連携で、園バスをということもあったが、公立幼稚園を望む保護者の大勢いるのも現実で、今通っている保護者の方も、これから妹、弟を入れたいなという声もまだまだ聞くし、地域に大変愛されている幼稚園であるので、統廃合になれば、せめて近隣の長尾幼稚園に通えるような特段の配慮をしてほしい。たとえば、今集合している地点から何らかの方法で幼稚園まで送迎してもらうなどを考えてほしいと強く思う。3年保育の実施と統廃合は一緒に考えていかないと何とも実現できないことだと思うので、大変つらい決断もしないといけな。公立幼稚園を求めている保護者はまだまだいるという事実もあるので、そのことも十分受け止めたうえで、数の問題だけで切り捨てないでほしいと思う。

事務局 もう1点確認させてほしい。先ほどブロックごとに3年保育をということだったが、仁川と長尾はすでに保育室も整備されているのでそちらです。1、2ブロック、5、6ブロックでまず1園ずつ。3、4ブロックで安倉幼稚園という意見が出たが、どのように整理したらいいか。

委員 安倉幼稚園は、自分も勤めたことがあるが、目の前が養護学校、隣が中学校、その隣が小学校、しばらくいくと保育園があるという非常に文教地区という立地条件にある。そのようなところで安倉の子どもたちがいろいろな安倉の地域のなかで育っていく中で、一つの力となって3歳児保育が進められれば良いと思う。とてもいい立地条件だと思うので、安倉幼稚園でいいと思う。

委員 市内全体の立地配分、バランスで考えたときに、中央の地域に3年保育のある園がとなると、安倉幼稚園が一番適切だと思うし、幼小中連携のなかで子どもを育てていかなければいけない地域でもある。そこで公立幼稚園が小中とつながりながら果たしている役割は大きいと思うので、そこで3歳児保育からということがすぐ求められることだと思う。

委員 公立幼稚園のPTA会で、安倉幼稚園の会長さんから話があったが、公立だから4、5歳しかなくてということで、幼稚園のすぐ近くの場所を借りて民間の方が、高額で3歳児保育をしている。正式な人数はわからないが、そこから安倉幼稚園に入る。ただとても高額だと言っていた。

事務局 補足だが、たまたま3園の名前が出ているが、長尾幼稚園、仁川幼稚園は教室があるといったが、未成幼稚園も他の園より教室が一つ多くある。仮に4、5歳児が今の学級数を維持したとしても、3年保育は可能であるという施設的な状況が3園は整っている。

委員 始められるところから始めて、様子を見ながら子どもの推移をみながら増やすか減らすかは順次考えいくというのも一つ。近くにないから、3歳に入れたいから遠い距離を行かないといけないとか、先ほど出ていた中山のほうは、山の上で一つしかない公立幼稚園がなくなってしまうというところで、私たちの時代は手をつないで歩いていこうと幼稚園の先生から指導されたが、今は自転車は近くまでOKとか、自動車も、きちんと止められる、違反でないところの場所に止め園に届ければOKと緩和されて、幼稚園も考えていると思う。そこも、手段も何か考えていけば、希望したところに行ける要因になる。私学でバスであるところを選ぶのも一つの要因。公立幼稚園も統廃合するなら、代替えのようになるものを考えてほしい。選ぶお母さんたちにとってはうれしいことだと思う。

委員 安倉幼稚園のことは、はっきりいって寝耳に水のような気がする。仁川幼稚園と長尾幼稚園は最初から話が出ていた。安倉幼稚園はいろいろな観点からそのような可能性があると思うが、何回も言っているが、必ず公立幼稚園でなくても、私立も補助金をたくさん出してもらえば、保育料が高額でない状態になれば、公立に必ず行きたいというわけではなく、私立にも、選択肢としての一つとして同等の立場になる。そういう意味では、市の住民である以上、同じように税金を払っているのだから、私立の子どもたちにも同じような条件を与えてほしい。新しく公立幼稚園は3年保育をつくっていただけでは、私立としてはつらいものがある。

会長 今の意見もその通りだと思う。公私間の格差の解消というのは大きな大事なポイントである。保護者負担の問題もあるし、3年保育保障という公私の格差も変えていく。バスなども含め格差を考えていく。第2回の審議会では、3園の統廃合と3園の3年保育の実施について方向性について確認できた。統廃合についての課題も出された。公私間の格差も出てきたとおりでと思うので、次回は課題整理と対応策を審議していきたい。また、公私間格差の解消という点で、保育料については次回審議したい。そして、他市の話も出たが、視野を広げて次回から議論していけたらいい。保・幼・小の連携、予算のことを言うのであれば小学校の統廃合予算、子ども園化のことなど…その辺も含めて、特別支援教育、幼保小連携、子育て支援、予算のことを次回審議していきたい。

#### 4 閉会